

2012 年度 チーム医療セミナー

- 学習目標: 1. チーム医療のなかでがん高度実践看護師として活動していく上で必要な他の学問領域の知識を獲得する。
2. チーム医療における多職種の実活動の実際を知り、がん高度実践看護師として協働について考える。
3. チーム医療セミナーを通して、がん高度実践看護師の専門性について洞察する。

対 象: がん看護学領域修士課程 1 年

期 間: 7 月～ 9 月

時 間: 1 回 2 時間 (平日 18:00～ 20:00、土日は午前・午後で対応可)

場 所: 高知県立大学看護学部棟 C322 演習室

	日時・場所	講師	内容
第 1 回	7 月 5 日(木) 18:00～20:00	掛田恭子 先生 高知大学医学部 神経精神科学教室	がん高度実践看護師に必要なサイコオンコロジーの知識 I
第 2 回	7 月 12 日(木) 18:00～20:00	掛田恭子 先生 高知大学医学部 神経精神科学教室	がん高度実践看護師に必要なサイコオンコロジーの知識 II
第 3 回	7 月 19 日(木) 18:00～20:00	掛田恭子 先生 高知大学医学部附属病院 緩和ケアチーム専任医師	緩和ケアチーム専従医師(精神医)の活動の実際
第 4 回	7 月 27 日(金) 13:30～15:30	原田千枝 先生 高知大学医学部附属病院 看護部 看護管理室	がん診療連携拠点病院の現任教育について
第 5 回	7 月 27 日(金) 18:00～20:00	北岡智子 先生 高知大学医学部附属病院 麻酔科 緩和ケアチーム	緩和ケアチーム専従医師(身体医)の活動の実際 疼痛緩和を中心に
第 6 回	8 月 1 日(水) 18:00～20:00	尾木恭子 先生 高知大学医学部附属病院 緩和ケアチーム専任薬剤師	緩和ケアチームにおける薬剤師の活動の実際
第 7 回	8 月 3 日(金) 18:00～20:00	小野知早子 先生 高知大学医学部附属病院 MSW	がん高度実践看護師に必要な医療・福祉制度の知識

2012年度 チーム医療セミナーが開講されました。

がん看護学領域では、毎年「がん高度実践看護師（APN）セミナー」とともに、チーム医療セミナーが開催されています。これは、高知県のがん医療の第一線で活躍されている医師・薬剤師・医療ソーシャルワーカーの先生方から、チーム医療におけるそれぞれの職種の活動の実際や、高度実践看護師として活動していく上で必要な知識についてご教授いただくセミナーです。

今年も、4名の先生に貴重な講義をしていただきました。



掛田 恭子 先生（高知大学医学部医学科 神経精神科学教室）
がん高度実践看護師に必要なサイコオンコロジーの知識Ⅰ，Ⅱ
緩和ケアチーム専従医師（精神医）の活動の実際

参加した学生さんより～

セミナーでは、まず、サイコオンコロジーとはどのようなものかということを知ることから始まりました。そして、基本的な人間の精神状態の評価の仕方や主要な疾患、薬物療法について学ぶことができました。主要な精神症状の基本的特徴、治療や薬物の作用や効果の理解が必要であり、その上でなぜその薬を使うのか、その副作用はどのようなものがあるのかなど、基本的知識を持って看護を行っていくことが大事であると感じました。



掛田 恭子 先生（高知大学医学部医学科 神経精神科学教室）
緩和ケアチーム専従医師（精神医）の活動の実際

参加した学生さんより～

セミナーを受けて、サイコオンコロジーにおける看護師の役割とは何なのか考えさせられました。精神症状の観察ができることや異常であると気づくことができること、知識を持って処方された薬剤を使用することが必要であり、他職種同士が協働して患者さんに関わることや患者さんに対する心のケアの基本となる支持的精神療法は看護師にも行うことができることを知り、今後の看護に生かしていきたいと思いました。



北岡 智子 先生（高知大学医学部附属病院 麻酔科蘇生チーム）
緩和ケアチーム専従医師（身体医）の活動の実際

参加した学生さんより～

講義を通して、CNSとして疼痛治療薬に関する確かな知識を身につけておくことが良好な疼痛コントロールを行っていくためには重要であるということ、さらに緩和ケアチームとしての活動の中では、何に困って依頼をしてきたのか、痛みだけでなくそのバックに何があるのかを、トータルペインとして病棟の医師や看護師を巻き込んで明らかにし調整していくことが、その病棟全体の成長に繋がれるということを学びました。そ

して、そのためには、患者さんの訴えをよく聞くことが要となることを改めて学び、常に意識していきたいと思いました。



尾木 恭子 先生（高知大学医学部附属病院 緩和ケアチーム専従薬剤師）
緩和ケアチームにおける薬剤師の活動の実際

参加した学生さんより～

チームで関わる際の、それぞれの職種の専門性を再確認することができました。事例にあったように、患者さんがレスキューを使ってくれない場合に、使用方法が分かってもらえていないのではないかと意識が行きがちであるが、使用しない理由が薬の形状や量によるものと気づくのは薬の視点から考えることができる薬剤師ならではの視点ではないかと思いました。薬について理解しているつもりでも、つい忘れてしまうことや、知らないこともあり、チームで関わっていくことでお互いに気づき合い、学び合って、患者さんへのよいケアにつなげていくことができると感じました。



小野 知早子先生（高知大学医学部附属病院 MSW）
がん高度実践看護師に必要な医療・福祉制度の知識

参加した学生さんより～

これまで勤務をしていく中で、社会資源や制度には疎い部分がありました。しかし、先生の講義を聞いて、CNSとして持つておく必要な知識とMSWの専門性を発揮してチームで連携をし、協働していくことによって一人の患者さんのより良い医療の提供ができるのではないかと思いました。そして、患者さんやご家族が安心して治療がすすめられるためにも、MSWの存在がとても大きいものであることも感じました。

チーム医療の重要性はわかっているけど、実際に協働や連携をしていくときには様々な課題を感じます。

どう協働・連携すれば患者さんによりよい医療が提供できるのか・・・ということはこれからもずっと、考え続けなくてはならない問題ですが、今回のセミナーで学んだことを生かして、まずは自分にできること、自分ができることを考えていきたいと思います。